

平成30年度 第 10 回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案なし			

平成30年度第 10 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成31年1月10日（木）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時00分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第10回教育委員会定例会を開会した。

2 平成30年度第9回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

議案なし

4 その他

なし

5 委員並びに教育長報告及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	議案なし
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「平成 31 年 垂水市成人式について」</p> <p>1月5日（土）、平成 31 年垂水市成人式に参加した。今年は新成人対象者が 162 名で、うち出席者は 101 名であった。</p> <p>メディアによると、鹿児島県内では 13,560 人が大人の仲間入りをしたとのことで、また更にこの数字は、最小であった昨年の記録を更新し、226 人の減少となり、平成元年以降最小の数値ということであった。</p> <p>さて、本市の式典は整然とした良い雰囲気で行った。</p> <p>「自分たちの手作りで」ということから、新成人が毎年実行委員会を作り、企画、準備、運営とすべてを担っているわけだが、このことが、「自分たちの式典を、自分たちの力を合わせて素晴らしいものにしよう」という大きな力に結集しているのだと思えた。</p> <p>スライドショーの編集や、式典全体の司会進行も、うまくいったと思った。そして今年も、新成人の皆さんにとって、自分と仲間たちの絆、そしてまた、いつも支えてくださる周りの大人たちの温かい思いやりなど、その連携のありがたさを、しっかりと認識できたのではないかと思えた。</p> <p>4 名の新成人代表による「はたちの主張」も、それぞれ自分の体験を踏まえた、若者らしいフレッシュな情熱が込められた、素晴らしい内容のものであった。「日本の若者たちは意外としっかりしているのだ」と、ある評論家が語っていたが、私も彼らが、「日本の将来をしっかりと担っていけるのだ」という期待の気持ちを強く持てた。</p> <p>また、「稀（まれ）～仲間と歩んできた平成（みち）～」という式典のタイトルも、平成最後の年にふさわしい、しっかりと歴史を捉えた表現であると思った。</p> <p>式典タイトル文頭の「稀(まれ)」が何なのか意味がわからなかったが、目前にして成人の日を迎えることができなかった、仲間の名前の一文字であることを知り、たいへん心を打たれた。</p> <p>その友人に対する、新成人の皆さんの思いやりと慈愛の心に、目頭が熱くなった。</p>
田原委員	<p>1. 「科学の祭典in垂水2018について」</p> <p>12月15日（土）、科学の祭典in垂水2018に参加した。</p>

毎年おなじみのブースではあるが、創意工夫がなされていて、毎年見ても「楽しいなあ」との思いがある。体験型のブースが多く、見て、触って、考えて、納得するところに大きな意義があるように感じる。しかし、スタッフの労力や負担を考えると、「隔年実施でも良いのかもしれない」と思うことであった。今年はブースの出展も少なく感じた。

2. 「垂水市成人式について」

1月5日（土）、平成31年垂水市成人式に出席した。

あいにくの雨模様で、特に晴れ着を着た女子の参加者にとっては、雨に濡れないように気を使っただろうと思うことであった。

さて、式典が始まってから感じたことは、学年としての友情の深さや、まとまりのよさを感じたところであった。

この式典に参加できなかった一人の友人の死を、みんなが残念に思い、「彼の分まで強く生きよう」という温かい気持ちがあふれていたように思った。

「はたちの主張」の新成人代表のひとりには、用意していた原稿が見つからず心配したが、その後の立派な主張は、「無くしたふり」をした演技ではなかったかと思わせるほどであった。「彼は大物だ」と思えた。

3. 「水之上小の児童からの年賀状について」

毎年、5月と12月に水之上小の6年生の子どもたちが、公民館や郵便局などに花を植えたプランターを届けてくれる。また、「大事に育ててください。」と添え書きも入っている。しかしながら、毎日の水やりができていないこともあり、うまく花が育っているのか自信がないところである。

小学校の先生から、「12月14日にお届けします」と連絡があったので、以前届いたプランターをきれいに洗って干して準備していた。新しく植えられた花のプランターと交換に、干して準備していたプランターを持って届けてくれた。

今年、児童からもらった年賀状には、「鉢をきれいに洗ってくれてありがとう。」と書いてあった。「いつも、花を届けてくれてありがとう」の気持ちが通じたようで、たいへんうれしい年賀状であった。

葛迫委員

1. 「和田英作・和田香苗記念絵画コンクールについて」

12月16日から23日まで、「第5回和田英作・和田香苗記念絵画コンクールの作品展」が、文化会館と市民館で開催された。

今回、学校賞で受賞された柗原小だが、3人の児童が受賞し、その3人が姉妹だと知り、「ほめてあげたい」と思った。

今回から、「一般部門には招待者の枠を設けてほしい」との声が審査員からあり、今までに和田賞を受賞された方で作品の完成度が高い方を、招待者ということで「推挙賞(審査員からの賞)」を差上げた。また今後は、招待者の中から「招待者賞」を設けてほしいとの要望もあった。

今回の展覧会については、作品の質の高さは向上しているように感じているが、展覧会における準備や連絡網など、関係者職員の大きな異動等によって横の連携がうまくいっていないようであった。

入選・落選の通知遅れや、新聞社への報告の遅れなどがあり、新聞掲載も展覧会後で、出品者に迷惑をかけてしまった。来年度は、このことを大きな反省材料とし、「緊密な連絡を取りながら対処していかなければならない」と思う展覧会であった。今後は私もスタッフに入って、早めの対応を取っていきたいと思った。

田之上委員

1. 「新庁舎建設ワークショップについて」

12月22日(土)、自分自身状況をよく理解していない中で、新庁舎建設ワークショップに参加し、設計業者の方々から説明を受けたり、新庁舎の模型を見たりすることができた。

ワークショップには市民の方々が参加し、新庁舎に対しての意見などが活発に出され、時間が足りないくらいだった。今回出された意見を業者や市役所の方々がまとめられ、今後につながって行くのではないかと思った。

今後も機会があれば、「私たちも一緒になって、いろいろと考えていかなければならないのでは」と改めて思うことだった。

2. 「学校評議委員会について」

先般、垂水中央中学校の学校評議委員会に出席し、各クラスの授業を参観させていただいた。

生徒の皆さんは、積極的に授業に参加し、発表したり、生徒同士が話し合いをしたり、問題を終わらせた生徒が、他の生徒に教えてあげたりすることを目の当たりにして、とても良い雰囲気であった。学校環境も相変わらずきれいにされていて、とても気持ちがよかった。

3. 「県の合奏祭について」

年末の午後、時間を見つけて合奏祭を聴きに行った。

垂水小学校の金管バンドも参加し、金管バンドの子どもたちが毎日練習している音色は耳にしている、今回も一生懸命演奏してくれて、素晴らしい演奏を聞かせてもらった。

教育長

1. 「3学期のスタートについて」

冬休みが無事に終わり、3学期がスタートしている。いつも思うのは、長期休業中の子どもたちの命や安全など、常日頃からとても気になり、携帯電話が鳴ったときは、どきどきとする。

今回は鳴る回数も少なく、何事もなく過ごせたことをありがたく思う。先般の校長会でも、「教員にとって、一番充実しなければならない時期は3学期である」ということを申し上げた。

つまり、子どもたちを最も成長させ、次に繋げなければならない締めくくりの学期ということで、とりわけ授業を変えていくこと、その中で、つまずきや困っていることを、もう一度しっかり担任が把握して、力が十分ついていない部分については、補充指導することなどを話した。

進級・進学という重い責任があり、次にバトンを託すことから大事な学期であることをお願いしてほしいと校長先生方に伝えた。

さて、教育委員会の仕事始めの式で話をしたことは大きく3つである。一点目は、「よいスタートを切りましょう。」ということだ。

よいスタートを切れば、きっと平成という時代をよい形で締めくくれるのではないかと思う。それは、新しい年号のよいスタートにつながるということではないだろうか。そのために、「プラスイメージで。前向きな視点で。」ということ、課長、係長においては、是非とも部下が元気の出る声かけをしてほしいということ、仕事が立て込んでくると、このような対応も難しくなってくるので、仕事のON・OFFをしっかりと自分でできるようにと話をすることだった。

二点目は、「スピード感を持って。」ということである。ややもすると、仕事に追いかける姿を見かけるが、年度末こそ「仕事を追いかける。」ということが、業務改善、あるいは働き方改革そのものになると話した。

三点目は、「組織での対応」ということ。常日頃から申し上げているが、3課長をはじめ3課が垣根を低くして一緒にやろうという雰囲気教育委員会全体に満ち溢れている。その中で達成感を味わったり、充実感を味わったりしていい流れを作っていければと思う。そのことが次の仕事へつながっていく、足腰の強い組織を作っていくことになるという話をすることだった。

最後に、正月の箱根駅伝を見られた方は、いろいろと思われたのではないかと思う。

私もいろいろと思った。青山学院大学が負けたことによって、きっと青山学院は来年以降強くなると思う。今回の負けは、決して無駄な負けではないのかなと思う。

監督も素直に「自分の采配ミスである。大きなミスをしたということと、本人が持っている力をほぼ達成できる『総合力』が優勝の秘訣である。」と監督も話をされていた。このことは我々の組織、学校においても言えることではないかと思う。教育に携わる仕事は「失敗が許されない仕事なのだ。」と改めて思うことだった。

今年は、フェンシングの「全日本選手権」、来年は「国体」と、多忙を極める年となる。また、来年度は「新学習指導要領」の完全実施の年も迎えることから、教育委員会も気持ちを新たに、「チーム教育委員会」で頑張っていきたいと思う。

教育総務課長
 学校教育課長
 社会教育課長

12月11日から1月10日までの主な行事等について報告。
 併せて、2月11日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会